

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 労働者福祉・共済 | 教育カリキュラム | 労働者自主福祉運動のすすめ (13)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

協同組合

労福協

労働金庫

全労済

県生協連

勤労者信用基金協会

年金福祉協会

福祉基金協会

ユニオントラベル

教育カリキュラム

労働者自主福祉運動のすすめ (13)



🔍 キーワード検索はこちら

中央の運動に呼应して静岡の歴史も動きますが、その歩みは多少異なります。これまで学んできたように、中央ではまず労働金庫が出来る前に「物対協」があり、労働金庫創立と時期を同じくして「福対協」に組織再編され、その組織が現在の「中央労福協」になっていきます。

これに対して静岡県の場合は、労働金庫設立後に「福対協準備会（福対協）」として発足します。「福対協」はまず労働金庫から斡旋物資購入資金を借りて、物資の斡旋販売を始めました。この物資斡旋事業は大好評でした。

「福対協」では、この「物資斡旋事業」も含め、3事業の独立化を図っていました。「火災共済事業」と「労働質庫事業」です。後に、この3事業はそれぞれ独立していきます。

「物資斡旋事業」は、「遠州生協・中部生協・東部生協」などの地方生協や「学生協」「職域生協」を生み出し、1967年には他組織と共同して「県生協連」が設立されます。

「火災共済事業」からは、難産の末に「静岡労済」が生まれ、現在の「全労済静岡県本部」となります。異色なのは「労働質庫事業」ですが、当時は未組織労働者に対して労働金庫からの融資の道も閉ざされていました。

労金法の縛り（団体主義）があったからです。そのため人々は間金か質屋の世話になっていました。そこで低利の「労働質屋」を開くわけですが、福対協が衣替えした「労福協」の設立で労金への道が開かれ、そして「勤信協」が設立されます。

こうして3つの事業体は大きく育っていきました。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録
お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.